

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>事業所独自に理念を掲げ、それに基づき、住み慣れた地域での安心した生活が継続できるような援助を心がけている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>カンファレンスやミーティングの時などに、職員で話し合ったりして、具体的なケアの方向性の統一を図っている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>事業所独自の理念を掲示し、家族には入居の時などに説明している。地域推進会議などの時に説明したり、開所時はコミュニティに行き説明をしている。</p>	○	グループホームの理念、役割が地域に理解されるよう、ほのぼののだよりの発行などに取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>近所のスーパーの利用や散歩の時など、隣近所の人に声かけや挨拶を心がけるように努めている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域の行事に参加している。普通に生活を送るために地域の方との交流をもち、一員となって行事に参加するまでには至っていない。</p>	○	地域での行事の参加や地域活動の参加をしていく。地域の保育所との交流会も企画中で継続させていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>中学生の体験学習の一環としてのボランティアの要請があり、一件受け入れをしたが、グループホームからの働きかけでは取り組めていない。</p>	○	<p>中学生の体験学習の一環としてのボランティアなどの要請があれば前向きに受け入れをしていきたい。地域の活動や状況について情報を聞き、役立つことがあれば取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価を活かして対処、改善に努力していきたい。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では毎月の行事や活動、取り組みなど報告し、話し合われた内容については、カンファレンスや申し送りなどにより報告、話し合いをし、それを活かした支援を行っている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市からの研修や会議に参加をしている。困った時に市の担当者に相談したり助言を受けたりして、サービスの向上に努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度は理解しているが、必要な入居者がいなかったので活用していない。</p>	○	<p>制度については知っているが、勉強不足な面があると思われるので職員皆で学んでいきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法について勉強会をしたり各自で学んで、虐待防止に努めている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり十分な説明をし、納得してから契約し、不安がないようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を引き出せるような関わり方をし、入居者の意見を聞き、速やかに対処している。 運営推進会議を開催し、意見、相談、苦情が出たときは伝えるようにし、投書箱の設置をしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態の変化や入居者状況はその都度お知らせはしているが、定期的なお便りは企画して今月より発行するようにしている。金銭面も使った時に報告している。	○	個々のお便りを今月より毎月、全体のお便りは3か月に1回送っていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し、意見、相談、苦情が出た時は伝えるようにしている。苦情相談窓口を設置し、普段から声かけなどにより意見を言いやすい環境づくりに努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、全体カンファレンスを開催し、意見や提案を聞き、反映させている。申し送り時や普段の会話の時も言いやすい環境づくりに努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の支援の必要度にあわせ、早番、遅番を導入しローテーションを組んでいる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	固定した職員体制になっている。 私事により退職され職員が変わった時は、ダメージが少ないように心がけ、配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の推進をしている。 研修は機会あるごとに参加し、勉強会など機会をつくり、スキルアップを目指している。	○	機会あるごとにこれからも順番に研修を受けられるようにし、勉強会も行っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護支援課主催の研修に参加し、交流する機会を持ち、指導や助言、勉強会などでサービスの質の向上に努めている。	○	引き続き継続していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常や面談時に、職員のストレスや悩みを把握するように努めていて、職員同士もよく話し合っている。 ストレスの軽減に向けての工夫や取り組みは行われていない。	○	ストレス軽減に向け話し合いの機会を持ち、取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場に来ており、入居者と過ごし、個別職員の努力や勤務状況を把握している。 職員の資格取得や研修を受講する環境づくりをしている。	○	引き続き継続していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に要介護認定の確認、診断書の提出をしてもらい、面接などにより本人が困っていることや希望することなどを、本人や家族から聞き、関係づくりに努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時や相談時などに家族の困っていることや思いなど話をゆっくり聴き、状況を把握し、信頼関係をつくっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案や相談をし、必要なサービス提供をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらうことからはじめ、本人が安心して納得したサービスを利用していただけるために医療関係、家族、職員が一丸となり、本人、家族などに相談しながら馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事などできることは職員と一緒にいき、お互い協働しながら生活できる場面づくりや声かけをしている。	○	グループホームで一つの家族という認識を持ってもらうよう努めている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時などは声かけを行い、近況報告や情報交換に努め、家族がどんなことでも言ってもらえるような雰囲気づくりを心がけている。	○	家族側に職員に対する遠慮がみえるので、まだ共に支えあう姿勢がお互いに不十分である。家族と支え合うよい関係になるよう努力していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来られた時などには本人の日常の様子、体調面などを話したり、写真や個別の日誌などを見てもらっている。家族間の思いや状況を見極めながら、外出や外泊を勧めたり、行事に誘ったりしてよい関係づくりに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや知人と会われるなどを、本人や家族の希望により支援しているが機会が少ない。	○	情報収集や積極的に希望を受け入れるなどをして、今後多くの機会を設けていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者間の意思疎通がうまく図れるようお手伝いしたり、良好な関係になれるように間に入ったりしているが、うまくできていない時もある。	○	助け合い支えあって生活していけるような、良好な関係づくりを図れるように、職員や家族などと話し合ったり支援する技術を身につけたりしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院してサービスを終了しても、職員はお見舞いに行き顔を見せに行っている。	○	サービス利用が終了しても行事に参加したり、遊びに来てもらうようにして、継続的な付き合いができるようにしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者がその人らしく生活できるように、日々の生活の中での声かけや話しかけなどで、個々の思いや意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居者に関しては積極的に情報収集し、把握に努めているが、慣れて来た方に関しては今までの情報が主になり収集の姿勢が不足してきている。	○	家族からの協力や本人への話しかけなどにより、個々の生活歴や経過など情報収集をして、今後のケアに活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝、夕の申し送りや月1回のカンファレンスで話し合いや意見交換をし、職員同士で共有し把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしい生活ができることがプランに反映されるよう、カンファレンスで話し合っている。作成前に家族の意見を聞くことが不足しているが、同意してくれている。	○	その人らしく生活していくために、支えていく家族と話し合う時間や機会を設けていきたい。その上でまた本人とも話し合い反映していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングやカンファレンスで見直す取り組みはしている。対応できない変化が生じた場合も随時見直し、関係者と話し合いながら見直している。	○	現状に即した計画になるように必要に応じ、随時対応していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や情報は共有できているが、介護計画の見直しに十分に活かされていない。	○	日々の気づきや状況が分かりやすく記入され、介護計画の見直しや状況の共有に活かされるような、書き方や様式を職員で話し合いつくっていききたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院など必要な支援は柔軟に対応している。 本人や家族が意見や相談を言いやすいような雰囲気づくりを心がけ、事業所でできる限りの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、消防は必要に応じて協力しながら支援しているがまだ不足している。	○	地域などよりいろいろ情報収集し、協力体制づくりを徐々にやっていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協力医療機関のリハビリに通っているが、他のサービス機関の利用はまだ行っていない。	○	重度化に伴い入浴サービスの利用など、必要に応じて検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度が必要な方は今までになく、地域包括支援センターとは電話で必要時に情報交換している。	○	地域包括支援センターとの協働機会をつくるよう心がける。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員や代表者が同行したり、訪問診療により、本人や家族と相談しながら、かかりつけ医や専門医に適切な医療が受けられるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医で指示や助言を受けているが、それでも困難な時は認知症専門医に相談、受診している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常に入居者の健康管理や状況変化に応じた支援をし、看護師や提携医療機関と連携も密に取れる体制が確保されている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携が確保されていて、常時、情報交換や相談に努めている。入院時の状態や退院に向けての連帯も整っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、全員の入居者や家族との話し合いはできておらず、方針の共有も図れていない。重度化した場合の対応指針はできている。	○	早い段階から関係者との話し合いの場を設け、適切なケアができるように対応方針の共有を図っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所での見極めはできていて、かかりつけ医と連携体制も取れ、チームとしての支援に取り組んでいる。今後の変化に備え検討も行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	まだそういう事例はないが、本人が別の居所に移る際は、本人のダメージが最小限度にすむように情報の交換は十分にしていきたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりに合わせた声かけを行い、誇りやプライバシーを損ねないような対応や書類の取り扱いをしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意見や希望を尊重し、押し付けることがないように心がけているが、説明不足の時もある。	○ 自らが決定できるような場面づくりを多くし、納得して暮らせていけるような対応をしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを尊重し、その日したいと思っていることを大切にしていきたいが、職員任せの時や職員の都合で動くことがある。	○ 職員が入居者に日々どう過ごしたいかを考えてもらえるような対応や、それに合わせた姿勢をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりが希望するような服装に心がけたり、本人の希望を聴き、職員が散髪したり、理容・美容に行けるようにしている。	○ 本人や家族と相談して、馴染みの理容・美容に行けるよう支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど、職員の声かけにより、行っていることが多い。	○ 自然な形で準備や片付けに利用者が参加するようになっていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつのは量は個人にあわせ調節したり、本人が管理したりしている。飲酒や喫煙は現在希望者はいない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表や本人の様子により、さりげなく声かけをし、トイレへの促しや誘導をしている。声かけには羞恥心やプライバシーに配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に希望のない入居者には声かけにより入浴してもらい、希望される方は希望に沿って入浴するようにしているが、時に職員の都合で行うことがある。	○	希望する入浴時間や人数によって、入浴の対応を検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。夜間は安眠していただけるように、個別に対応し支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や特技など把握に努め、それを活かした楽しみごとや気晴らしを支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にあったお金の取り扱いにしており、家族と相談してその人の希望で対応するよう支援している。お金を持たせていない人もいる。	○	今はお金を預かっている方は少ない状況なので、今後個別に検討していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	受診などその日の都合により行えない日はあるが、散歩、ドライブ、地域の行事の参加など外出の支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の際には、入居者に行きたいところの希望を聴き、なるべく実現できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが連絡を取ることは少ないが、希望すれば電話や手紙のやり取りの支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の馴染みの人たちが気軽に来れるように、明るく迎え、お茶など提供し、ゆっくり過ごされるような環境づくりをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行う必要はなく行っていない。 「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をカンファレンスで少し触れたが再確認する必要性はある。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を職員で再確認する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間、防犯のため意外はかけていない。入居者の不安や閉塞感、家族や地域の人々の印象など認識し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はプライバシーに配慮しながら、入居者の体調や様子、所在の把握に努めている。夜間も時間ごとに様子を確認し、起きた時もすぐ対応できるように工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針、刃物などの注意の必要な物は、利用者の状態に合わせて対応し、安全の確認をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を作成し、事故防止にむけて、事故の原因、問題点、対策など情報交換や話し合いをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルは作成しているが、応急手当や初期対応の訓練を定期的には行われていない。	○	全職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行えるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルは作成してあり、定期的に避難訓練も行われている。災害時の避難経路や避難場所も決まっている。	○	引き続き継続していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	抑制を行わずに生活して、予測される転倒やトラブルなどのリスクについて、状況の変化や利用者の状態に応じ、個々に説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の状態観察やバイタルチェック、体重の変化などにより、早期発見し、対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のお薬手帳や服薬チェック表を用い、使用している薬の目的、容量など理解し、症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個人の水分摂取量をチェックし、水分補給を促し、本人のペースに合わせた体操など身体を動かすように勧めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけを行い口腔内を清潔にしている。毎夜、義歯の手入れも薬液に浸ける方法で行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取の記録をしている。必要量が確保できるように声かけや調理法により、摂れるように工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して予防マニュアルがあり実行している。インフルエンザワクチンは入居者や職員のできる人は摂取している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用品、布巾、テーブルマットなど除菌し、衛生管理に努めている。消費期限や賞味期限に気を配り、安全な食材の使用など食品の管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の前には畑があり季節ごとの野菜を植え、玄関前に鉢植えやベンチを置き、玄関には観葉植物や季節ごとの生け花を装飾し工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵画や観葉植物、季節のお花を飾ったりして、居心地の良い空間づくりに配慮している。ホールから見える所には紅葉や桜の木などを植え、季節感が感じられるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの小さいテーブルとソファのところで、利用者同士で過ごせる所がある。一人になりたい時は、自室でいつでも自由に過ごすことができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり、ご自分の椅子などを持ってきたりしている。本人と家族に相談しながら持って来てもらい、居心地よく過ごせるように心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節は外気温との温度差や入居者の様子をみながら調節している。換気は、寒い時期にもするように心がけているが、できていない時もある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態にあわせ、手すりを設置し、滑り止めシート使用や玄関に椅子を置くなど工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	著しい見当識障害のある方がいないので、積極的にはやっていないが、新しく入居された方が、ときに迷っているのので声かけをしている。	○	本人にとって、どうしたら分かりやすくなるかなど職員で話し合い検討していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の前に畑があり、外周には椿や桜、紅葉など植栽されていて、入居者が楽しみながら活動できるような環境づくりをしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほほ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほほ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほほ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者に、職員ともども一日一度は、声を出して笑えるような生活に取り組んでいる。また、実践できていると自負している。